

戦争遺跡の授業実践における多様な活用[†]

—土崎空襲を題材とした近隣各学校の取り組みを事例として—

外池 智*

秋田大学教育文化学部

本稿では、昨年度の論稿を引き継ぎ、戦争遺跡の指定・登録の現状とその類型的分析を試みるとともに、戦争遺跡の授業実践における多様な活用について、土崎空襲を題材とした土崎地区の各学校の取り組みを事例として検討した。実践分析については、土崎地区の全学校、すなわち小学校5校、中学校3校、高校1校のそれぞれの実践を取り上げ、どのように戦争遺跡を学習活動に取り上げているのか、また単元構成の中でどのように位置付けているのかを視点として各実践を検討した。戦争遺跡の多様な活用として、(1)平和学習としての活用、(2)キャリア教育や「生き方」教育としての活用、(3)身近な地域理解学習としての活用、(4)修学旅行の一環として沖縄との比較研究としての活用、(5)課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成としての活用として5つに類型化し、それぞれの実践の特色を示した。

キーワード：戦争遺跡、歴史教育、戦争学習、土崎空襲、多様な活用

1. 本研究の目的

戦後60年を超える年月を経て、直接的な戦争体験を持つ世代が減少していくにつれ、身近な人々からの「戦争」の語り伝は日々失われつつある。戦争の「語り部」の減少、「ヒト」から「モノ」へ、確実に戦争の「記憶」や「記録」、「痕跡」が移行していく中、体験者の持つリアリティに迫る理解・共感可能な学習をどのように展開していくのか、これからの戦争学習の大切な課題である。

こうした現状を踏まえて、本稿では昨年度の論稿「戦争遺跡のアーカイブと歴史教育における活用—秋田県を事例として—¹⁾」を引き継ぎ、戦争遺跡の指定・登録の現状とその類型的分析を試みるとともに、土崎空襲を題材とした近隣各学校の取り組みを事例として、戦争遺跡の授業実践における多様な活用について検討したい。昨年度の論稿においては、現在

の全国における戦争遺跡について、特に文化庁を中心とした「近代化遺産総合調査²⁾」による取り組みを整理するとともに、その学校教育における学習材としての活用を秋田県を事例に取り上げ、特に土崎空襲を題材にした小・中・高校のそれぞれの実践に関して、近隣の小学校2校、中学校1校、高校1校について検討した。本稿では、さらにこれら4校を含む土崎地区の全学校、すなわち小学校5校、中学校3校、高校1校のそれぞれの実践について、どのように戦争遺跡を学習活動に取り上げているのか、また単元構成の中でどのように位置付けているのかについて検討していきたい。

2. 戦争遺跡における指定・登録の現状（2008年8月現在）

国や県、各市区町村による文化財としての指定・登録³⁾は、1990年の「沖縄陸軍病院南風原壕群20号」（沖縄県南風原町）の町指定を皮切りに、2008年8月現在で、国指定文化財16件（11.1%、前年比5件増）、県指定文化財7件（4.9%）、市区町村指定文化財63件（43.8%）、国登録文化財51件（35.4%、前

2009年2月12日受理

[†]Various Teachings of The War-Related Sites; Focusing on The Case of Schools on The Tsuchizaki area

*Satoshi TONOIKE, Faculty of Education and Human Studies, Akita University, Akita

年比4件増), 市区町村登録文化財4件(2.8%), 北海道遺産⁴・市民文化資産⁵3件(2.1%, 今年度より計上)の合計144件(前年比12件増)が指定・登録されている⁶(「資料1 全国の指定・登録戦争遺跡一覧」「資料2 各都道府県別指定・登録戦争遺跡数」参照)。各指定・登録文化財では, 現在144件の指定・登録の内, 市区町村指定文化財が63件で最も多く, 全体の4割以上を占めている。都道府県別では, 北海道が24件(前年比1件増)と最も多く, その内訳は国指定2件, 県指定5件, 市区町村指定14件, 国登録2件, 道遺産1件である。全24件の内17件が屯田兵に関わる遺跡で, 7割以上を占めている。次は千葉県の17件で, その内訳は県指定1件, 市区町村指定14件, 国登録2件である。全17件の内12件が南房総市の「大房岬要塞群」で7割を占めており, 全て「②軍事・防衛」関係の遺跡である⁷。3番目は鹿児島県の14件(前年比1件増)で, その内訳は市町村指定2件, 国登録12件である。全14件の内8件が瀬戸内町に代表される小学校の「奉安殿」で6割近くを占めている。4番目は昨年は沖縄県の8件であったが, 今年度は京都府の10件(前年比3件増)である。その内訳は, 国指定5件(前年比4件増, 3件純増で1件は市町村指定からの変更), 国登録5件である。舞鶴市の海軍兵器廠弾丸庫などの武器庫の指定が特色的である。

さらに, こうした指定・登録文化財を前述した8つの類型で整理したものが「資料3 全国の指定・登録戦争遺跡類型化」と「資料4 都道府県別指定・登録戦争遺跡類型別数」である。類型別に見ると, 全144件の内, やはり「②軍事・防衛」関係が56件(38.9%, 前年比7件増)で最も多く, 次が「⑧その他」で23件(16.0%, 前年比1件増), 「①政治・行政関係」が22件(15.3%), 「⑤居住」関係で21件(14.6%, 前年比3件増)である。最も多かった「②軍事・防衛」関係の都道府県別では, 千葉県の15件, 北海道の9件(前年比1件増), 鹿児島県と京都府の5件の順で多く, 中でも千葉県では前述した南房総市の「大房岬要塞群」が, 北海道では陸軍や屯田兵関連遺跡が, 鹿児島では「陸軍知覧飛行場関連遺跡」, 京都府では「舞鶴市海軍兵器廠」の武器庫関係が多くを占めている。続く「⑧その他」の23件では鹿児島県が9件(前年比1件増)で突出しており, その内訳は前述した通り瀬戸内町に代表される小学校の「奉安殿」が多くを占めている。「①政治・行政」

関係の22件は, 全国で平均的に見られるが, 4番目の「⑤居住」関係の21件では, 北海道の9件が半数を占めており, 前述した屯田兵関係の遺跡が多い。

最後に, こうした文化財の指定・登録別と類型の相関を整理したものが「資料5 指定・登録ごとの戦争遺跡類型別数」である。国指定では16件のうち「①政治・行政」関係と「②軍事・防衛」関係が各5件で, 前者では「陸軍第7師団偕行社」(北海道旭川市), 「陸軍第8師団偕行社」(青森県弘前市), 「陸軍金沢偕行社」(石川県金沢市)の偕行社関連遺跡が目立つ。また, こうした国指定文化財の中には, 近現代の戦争遺跡登録の火付け役となった「原爆ドーム」(広島県広島市)も含まれる。その他市区町村指定や国登録文化財では, やはり「②軍事・防衛関係」が多いが, 特に国登録文化財(51件)の内, 1/4近くを占める「⑧その他」が目立ち, その内訳は前述した鹿児島県瀬戸内町を中心とした「奉安殿」である。

3. 土崎空襲を事例とした学習材としての活用

秋田県下の戦争遺跡とそのアーカイブの現状に関しては, 昨年度の拙稿で取り上げた通りである。秋田県下の場合, 戦争遺跡・資料関係のアーカイブに関しては, 全県的な組織的取り組みはなされておらず, 文化財としての指定・登録も全くなされてない状況である⁸。また全県を網羅する体系的刊行物も発刊されていない。しかし, 市民運動として, 日中不戦友好碑建立実行委員会(1965)が母体となって1971年に発足した「日中不戦友好碑をまもる会」(佐藤守理事長, 奥山昭五代表, 富樫康雄事務局長), そして1975年の土崎港被爆30周年を記念して組織された「土崎空襲被爆市民会議」(高橋茂会長)の二つの団体の活動は突出している。これら二つの団体からは, 土崎空襲関係では『はまなすはみた⁹』(1981年), 『証言・土崎空襲¹⁰』(1992年)『新はまなすはみた¹¹』(2002年)が, 花岡事件関係に関しては『花岡事件五十周年記念誌¹²』(1995年)や『花岡事件六十周年記念誌¹³』(2005年)などの体系的刊行物も発刊され, 構成員によるフィールドワークも積極的に実施されている。

本稿では, このうち土崎空襲について取り上げていきたい。土崎空襲の概要も前掲書の通りである。1945年8月14日午後10時半ごろより翌15日未明にかけて約4時間にわたり行われた夜間空襲で, 「日本

で最後の空襲」と呼ばれている。攻撃目標は、当時日本で最大の産油量をあげていた雄物川河口に立地された日本石油製油所であったが、近隣の民家も多大な被害を受けた。B29を中心とした爆撃機約130機により12,000発を超える爆弾が35フィート（約11m）間隔で投下され（国内での空襲では、最大投下数とも言われている）、目標である日石は壊滅するとともに、死者数は非戦闘員93名（日石職員、市民、警察など）、兵士の約160人（高射砲中隊員、機関銃隊員など）の計250名ほどにも上った¹⁴。

この土崎空襲に関わる戦争遺跡は、空襲であるがゆえに当時のまま残存しているものは極めて限られており、日石関係の建築物では唯一残存している新日本帝国石油秋田油槽所内の被爆倉庫（以下、被爆倉庫と示す）や雲祥院の首なし地蔵などである。しかし、「土崎空襲被爆市民会議」では、地域に残されている供養塔や跡地などを含めた遺跡12箇所を整理した「ウォーキング・マップ」を作成し、戦跡の保存、普及活動を展開している。

また、こうした土崎空襲に関わる戦争遺跡は、近隣の学校の中での社会科や地理歴史科の教科教育や、「総合的な学習の時間」の多様な学習活動の中で積極的に活用されている。ここでは、空襲地近隣の全学校、すなわち小学校5校（土崎小学校、土崎南小学校、飯島小学校、飯島南小学校、港北小学校）、中学校3校（土崎中学校、飯島中学校¹⁵、下浜中学校）、高校1校（秋田中央高校）のそれぞれの実践について、取り上げていきたい。

さて、近隣諸学校の取り組みを検討すると、まず以下の5つの実践として整理することができる。

- (1)平和学習としての活用
- (2)キャリア教育や「生き方」教育としての活用
- (3)身近な地域理解学習としての活用
- (4)修学旅行の一環として沖縄との比較研究としての活用
- (5)課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成としての活用

この5つの類型により、各学校の実践について、どのように戦争遺跡を学習活動に取り上げているのか、また単元構成の中でどのように位置付けているのかについて検討していきたい。（「資料6 土崎空襲に関する近隣各学校の取り組みと単元構成」参照）

(1)平和学習としての活用

社会科や総合の時間、あるいは文化祭の企画展などで、戦争学習や平和学習のコンテキストで取り扱われている事例で、土崎小学校、土崎南小学校、秋田中央高校の実践である。順次各学校の実践について検討していきたい。

①秋田市立土崎小学校における実践

土崎小学校は、6年生の社会科の中で取り上げている事例である¹⁶。土崎小学校は、所在が被爆地のすぐ近隣にあり、その敷地内には学童12名が空襲に巻き込まれて死亡したことを慰霊して「学童12名受難の碑」（1990年建立）が建てられている。この慰霊碑には、月見草の咲く浜で遊ぶ12人の子どもの姿が陶板に描かれており、かつて子どもたちと遊んだ日々を、生き残った同窓生の美術教師が慰霊の意味を込めて描いたものである。さらに、土崎小学校では、1975（昭和50）年に土崎被爆30周年記念式典（この時に「土崎空襲被爆市民会議」が発足している）、1977（昭和52）年には土崎被爆33回忌慰霊祭が開催されている。



さて、土崎小学校の6年生社会科は全100時間で構成され、大単元は以下の6単元で構成されている。まず「学年オリエンテーション」（2時間）、「1 大昔の暮らしをのぞこう」（13時間）、「2 武士の世の中をさぐるよう」（19時間）、「3 新しい日本の国づくりを見つめよう」（14時間）、「4 戦争から平和への歩みを見直そう」（12時間）、「5 暮らしと政治を調べてみよう」（11時間）、「6 世界の人々とのつながりを広げよう」（17時間）、予備時間12時間。このうち、土崎空襲を取り上げているのは「4 戦争から平和への歩みを見直そう」（12時間）である。この全12

時間は、「オリエンテーション」(1時間)、「1 戦争と人々の暮らし」(6時間)、「2 平和で豊かな暮らしをみざして」(4時間)、「まとめ」(1時間)で構成されている。授業の中では、やはり前述の被爆市民会議の高橋茂氏を招き体験談を語ってもらうとともに、不発弾の現物や被爆者の衣服などの戦争遺物の現物資料も活用している。また、子どもたちは各自のグループごとの課題を設定し、『はまなすはみた』『新はまなすはみた』などの文献資料、被爆倉庫や雲祥院などの戦争遺跡へのフィールドワーク、近隣の被爆体験者への聞き取りなどの調べ学習を展開している。さらに、8月14日の慰霊祭には、毎年慰霊作文を小学生が直接読み上げており、これは希望者による家庭学習により実施されている。

②秋田市立土崎南小学校における実践

土崎南小学校は、「総合的な学習の時間」において44時間というかなり多くの時間をかけ、土崎空襲を取り上げている事例である¹⁷。土崎南小学校は、所在が被爆地のすぐ近隣にあり、当時は土崎高等女学校があった。被爆日には第二救護所としてたくさんの負傷者が校庭に運ばれ、従軍看護婦の手ほどきを受けていた生徒たちも救護に当たった。しかし、医者・看護婦・医薬費不足の中、この地で亡くなった方も多く、現在は校庭内に「恒久平和の碑」が建立(1988年)されている。こうしたこともあり、土崎南小学校では土崎空襲について積極的に取り上げ、特に総合的な学習の時間において「平和の大切さを伝えていくために」という単元を設定し、取り組んでいるのである。



さて、「平和の大切さを伝えていくために」は全部で44時間で構成され、「プロジェクト1 55年前に何が起きた?～土崎空襲について知る～」(12時間)、

「プロジェクト2 土崎空襲を伝えようPart1～土崎空襲コーナーに展示する資料を作成しよう～」(16時間)、「プロジェクト3 土崎空襲を伝えようPart2～校内に土崎空襲コーナーをつくらう～」(16時間)の3部構成になっている¹⁸。大局的に見て、「プロジェクト1」は、基本的に調べ学習であり、「プロジェクト2・3」はそれをまとめ表現していく構成になっていることがわかる。とりわけ「プロジェクト1」(12時間)での調べ学習では、視聴覚資料としてビデオ、文献資料として新聞、臨地的調査として被爆倉庫などへのフィールドワーク、そしてゲストティーチャーとしてやはり高橋氏、さらに被爆体験者である浅野喜代さんからの体験談の聞き取りと意図的に多様な資料や調査対象を設定し、多角的に土崎空襲をとらえる工夫がなされていることが指摘できる。前述したように、土崎空襲に関わる戦争遺跡は極めて限られており、日石関係の建築物では唯一残存している被爆倉庫や雲祥院の首なし地藏などである。こうした限られた痕跡を多角的資料や体験者の語り、そして臨地的調査などにより、より臨場的に事象をとらえる工夫をしているのである。

③秋田県立秋田中央高校における実践

秋田中央高校は、文化祭の戦後60年(土崎空襲から60年)企画展において、生徒会執行部の生徒を中心としてプロジェクトワークとして土崎空襲を取り上げた事例である¹⁹。秋田中央高校もその所在が土崎地区にあり、被爆地のすぐ近隣に立地している。



さて、同校の生徒会執行部は、例年、ビデオ上映会を行ってきたが、「人も来ないし盛り上がらない」状況が続いていた。そこで、4月の執行部会議で「今年は何か違うものを」と話し合い、2005年の

土崎空襲60周年を迎える年の文化祭であるということで、土崎空襲のことをやれば地元の人にも来るのではないかと考え企画したのである。企画展を実施するため、生徒会執行部の25人と一部新聞部員は、文化祭の実施（6月24・25日）までに計10数回に及ぶ「勉強会」を実施している。特に第1回目（5月23日）の「勉強会」では、校内勉強会とし、同校の近江谷正幸教諭により土崎空襲の基礎的学習と被爆倉庫へのフィールドワークの事前学習を実施している。第2回（5月25日）には、被爆倉庫などへのフィールドワークと不発弾等の現物資料が残されている国土交通省秋田港湾事務所内資料室の見学を行い、その後は校内に戻り、高橋氏をゲストチャーチングした体験談の聞き取りを実施している。実際の文化祭では、24日に生徒会有志が『はまなすはみた』を群読し、25日の一般公開日には、調査内容をまとめたパネルや被爆市民会議から借りた爆弾の現物資料、犠牲者の衣類など多数を展示し、その内容はホームページ上でも公開している。執行部のリーダーであった吉田優香（当時3年生）さんは、その後、被爆地で水を求めた被爆者らが集まってその多くが亡くなった光沼を題材に絵画（縦73cm、横91cm）を描いている。被爆市民会議の要望を受けて制作したもので、土崎空襲60年犠牲者追悼平和記念式典で披露されている。

(2) キャリア教育や「生き方」教育としての活用

キャリア教育の一環として、あるいは過去を振り返り、現在を見つめ、未来の生き方を考えるとして「生き方」教育として取り上げている事例で、飯島小学校、飯島南小学校の実践である。

① 秋田市立飯島小学校における実践

飯島小学校は、「総合的な学習の時間」で大単元「飯島発 未来へとつなぐ平和への思い」を25時間で設定し、児童達の生き方教育として取り上げている事例である²⁰。飯島小学校も所在が被爆地の近隣で、戦時中は横須賀海軍管区武山海兵燃料隊が駐屯し、松根油採油作業に従事していた。部隊は土崎空襲当夜、救援のため出動したが、先頭のトラック1台は被爆し、約30人が死亡した。死体は同校敷地内の松林下に並べられた。これを慰霊し、1989（平成1）年には前庭に、1998（平成6）年には裏庭に慰霊碑が建立されている。

さて、こうした飯島小学校では、「総合的な学習の時間」を「まつかぜタイム」（6年生は全80時間）として実施している。3-6年生のそれぞれで学年テーマがあり、3年生は地域、4年生は福祉、5年生は環境、6年生は生き方が大テーマになっている。とりわけ6年生では、「めざす子供の姿」として設定されている目的のうち、2番目の目的として「日本の歴史や文化、昔の人々のくらしに触れる活動を通し、現在の自分や社会を見つめ、これからの自分の歩みや人類・地球の未来について考えていこうとすることも²¹」としており、過去を振り返り、現在を見つめ、未来の生き方を考えるという設定になっている。



さて、6年生の「まつかぜタイム」（全80時間）の大単元は以下の6単元で構成されている。「オリエンテーション」（2時間）、「わたしたちの旅づくり～仙台、松島大発見～」（15時間）、「Iijima縄文プロジェクト」（20時間）、「夏休みの自由研究」（事前3、事後2時間）、「飯島発 未来へとつなぐ平和」（25時間）、「残そう！人類、地球へのメッセージ」（13時間）。このうち、土崎空襲を大きく取り上げているのは「飯島発 未来へとつなぐ平和」（25時間）である。内容は、「つかむ」（4時間）-「調べる・準備する」（3時間）-「深める」（15時間）-「振り返る」（1時間）として、調べ学習を4段階にプロセス化することで構成していることがわかる（資料6参照）。最初の「つかむ」段階で高橋氏を招き、体験談を聞くことで課題設定につなげている点は、他校のように高橋氏の体験談そのものを調べ学習の対象としているのとは違い、飯島小学校の特色であろう。しかし、さらに「深める」段階では、再度高橋氏への聞き取りを実施したり、子どもたちの家族、

地域の人々、雲祥院、被爆市民会議の方など対象を広げている。

②秋田市立飯島南小学校における実践

飯島南小学校は、2005（平成17）年から2007（平成19）年まで「生き方指導としての進路指導」として秋田市教育委員会から研究指定を受け、キャリア教育の中で土崎空襲を取り上げた実践である²²。飯島南小学校は、ここで取り上げている土崎在所の学校の中では、被爆地から遠く位置し、他の学校のように、敷地内に慰霊碑などはない。



さて、飯島南小学校では、研究主題として「ゆめきりり～一人一人が自分の生き方を見つめ、ゆめの実現に向かっていくことを目指して～」を掲げ、1年生から6年生までを見越したキャリア教育、「生き方教育」を構築した²³。特に、6年生では「かがやき学習」（「総合的な学習の時間」）の中で、「出会い 感動 かがやけ命」をテーマに掲げ、大單元としては、「宮沢賢治を調べよう」（修学旅行との関連）、「戦争を調べよう」、「今輝いている人に学ぶ」の3つを構成している。この中で、「今輝いている人に学ぶ」（全15時間）では、特に「生き方」教育の中で、命にかかわる生き方をしている人から学ぶとして「救急救命士」「助産師」「平和活動家」の三例を挙げ、このうち「平和活動家」の生き方の中で高橋氏を招くなどして土崎空襲を取り上げたのである。したがって、土崎空襲そのものは間接的学習対象として位置付けられ、むしろ土崎空襲と向き合い、今日まで地域での平和希求活動を続けてきた高橋氏の生き方そのものが直接的学習対象となっている。調べ学習においても、文献からの学習や祖父母や近隣のお年寄りからの聞き取りによる土崎空襲の

調べ学習はなされるが、被爆倉庫など戦争遺跡へのフィールドワークは実施されていない。構成は、資料6の通りで、やはり学習を「見つける」、「深める」、「広げる」の三段階にプロセス化し、最初の「見つける」では『『輝くこと』を考えよう』（3時間）、次の「深める」では「輝いている人の生き方や仕事をさぐろう」（3時間）、「取材したことや調べたことをもとに、学習会の準備をしよう」（2.5時間）、『『輝くために』学習会を開こう』（1.5時間）、『『輝くために』交流会に向けて準備をしよう』（3時間）、最後に「広げる」では『『輝くために』交流会で学びを語り合おう』（2時間）の構成となっている。

(3)身近な地域理解学習としての活用

秋田市立港北小学校は、土崎空襲に焦点化して取り上げているのではなく、「総合的な学習の時間」において、児童たちの身近な地域理解学習の一環として取り上げている事例である²⁴。港北小学校も所在が秋田市土崎地区にあり、土崎南小学校ほどではないが被爆地の近隣である。



さて、港北小学校においては、「かがやき」学習（「総合的な学習の時間」）と社会科での戦争学習を関連付けて土崎空襲を取り上げているが、特に「かがやき」学習においては、大單元「土崎新発見」（46時間）のうち「この土崎から平和を願って」（3時間）で取り上げている。単元の目標に「土崎の歴史を知ったり、そこで生活している人たちの思いや願いに直接触れたりすることで、ふるさとよさを知り、新たに見つめなおそうとする」とあるように、児童たちに生活圏であり学習圏である土崎を知ろうといった学習の一環として土崎空襲が位置付けられているのである。全35時間をかけて設定している前

述の土崎南小学校とは対照的である。しかし、3時間という限られた時間ではあるが、被爆倉庫の見学や空襲時の衣服、爆弾の破片などの実物史料の活用、ゲストティーチャーとしてやはり高橋氏を招き体験談を語ってもらうなどして多様な観点から土崎空襲をとらえる工夫をしている。

(4) 修学旅行の一環として沖縄との比較研究としての活用

秋田市立下浜中学校は、沖縄への修学旅行の事前学習と「総合的な学習の時間」を連関させ、その事前学習の調べ学習の一テーマで土崎空襲を取り上げている事例である²⁵。下浜中学校は、ここで取り上げている他の実践校とは違い、空襲のあった秋田市土崎地区からは約15kmも離れており、学習対象である土崎空襲関連の戦争遺跡が生徒たちの生活圏にあるわけではない。しかし、やはり総合的な学習の時間（「S-WAVE²⁶」と呼ばれている、全70時間）において、沖縄への修学旅行との関連で土崎空襲を取り上げている。この「S-WAVE」は、「1 命の学習、『生き方』の学習」（10時間）、「2 スキル学習」（10時間）、「3 課題追究の時間」（50時間）の3つの大単元で構成されており、「課題追究の時間」では1～3年生においてそれぞれのテーマ設定がなされている。それぞれのテーマは、1年生は「単元Ⅰ ふるさと探索」と「単元Ⅱ 職業人に学ぶ」、2年生は「秋田・沖縄比較研究」、3年生は「単元Ⅰ 世界の中の日本」と「単元Ⅱ 卒業研究（個人研究）」であり、特に土崎空襲を取り上げているのは2年生の「秋田・沖縄比較研究」である。下浜中学校では、2005年度より修学旅行先が沖縄県になり、その修学旅行の事前学習と関連させて、このテーマが設定されたのである。生徒たちは、「S-WAVE」の「3 課題追究の時間」（50時間）をあて、「秋田・沖縄比較研究」の個人ごとの研究テーマを決め、課題研究を進めている。2006年度では、「沖縄のお菓子について」や「沖縄の方言」、「沖縄はなぜ日本一長寿国なのか」などの全部で19件の多様な比較研究テーマのうち、「沖縄の戦争について」「ひめゆり学徒について」「沖縄の戦争」「沖縄の地上戦～ひめゆり学徒隊～」の4つが戦争学習に関わるテーマであった²⁷。沖縄での戦争学習を調べ学習として進めるとともに、その比較研究としての秋田の題材として土崎空襲を取り上げたのである。土崎空襲に関わる単元は、各自

のテーマとは別に全員参加で、半日を4時間分として郊外学習に当て、やはり高橋氏と新日本帝国石油秋田油槽所佐々木和彦所長の案内により、被爆倉庫などを見学・調査している。

(5) 課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成としての活用

秋田市立土崎中学校では、「総合的な学習の時間」におけるいわば課題解決学習の中で土崎空襲を取り上げている事例である²⁸。土崎中学校は、JR土崎駅のすぐ近隣に位置するが、他の学校のように校内に慰霊碑などは存在しない。

さて、土崎中学校では、「総合的な学習の時間」の研究主題を「自ら学び、自ら考え、主体的な判断をすることができる生徒の育成～人やものとのかかわりの中で体験的な学習による課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成を通して～」を掲げ、体験的学習を通じての課題形成能力・課題解決能力・表現能力の諸能力育成の中で、土崎空襲を取り上げている。学年毎に指導計画の枠組みを決定するためのテーマを設け、第1学年では「郷土に学ぶ」、第2学年では「日本に学ぶ」、第3学年では「世界に学ぶ」が設定されている。第1学年では全54時間で、「入門期ミニスキル前期」（10時間）、「入門期ミニスキル後期」（15時間）で、まず調べ学習の基礎的なスキル（書籍新聞の利用、パソコンの基本操作、発表の仕方など）の育成をし、次に「自己課題設定期」（29時間）において具体的に自己の学習課題を設定していく（調査項目、調査内容の検討と決定、訪問先の選定、訪問地についての事前学習、校外学習についての計画・準備など）。そして、第2学年では全68時間で、「自己課題検討期」（25時間）で実際のフィールドワークの実施、「自己課題設定期」（6時間）では、これまでの「郷土に学ぶ」での活動を踏まえてテーマを「日本に学ぶ」に変え、「自己課題追求期」（37時間）で盛岡などへのフィールドワーク実施している。最後に第3学年では全48時間で、「修学旅行校外学習」（8時間）、「自己課題解決期Ⅰ」（14時間）、「自己課題解決期Ⅱ」（12時間）で国際交流学習、そして「学習のまとめと発信」（14時間）でこれまでの学習の振り返りとまとめ、作品の作成を実施している。土崎空襲は、第1学年から第2学年前半にかけての「郷土に学ぶ」学習（計79時間）の中で、取り上げられており、生徒全員の共通課題

ではなく、それを学習したい生徒の課題解決学習として取り上げられている。学習の中では、元被爆市民会議の会長であった越後谷太郎さん宅へ直接伺い体験談の聞き取り、被爆倉庫へのフィールドワーク、土崎図書館での文献調査などを実施している。また、必ずしも土崎空襲のみならず、花岡事件と合わせて学習を展開している生徒も多く、秋田県内の地域に残る戦争学習として展開されている点は他校に見られない特色である。

4. 戦争遺跡の多様な活用

以上、本稿では昨年度の論稿を引き継ぎ、戦争遺跡の指定・登録の現状とその典型的分析を試みるとともに、土崎空襲を題材とした近隣各学校の取り組みを事例として、戦争遺跡の授業実践における多様な活用について検討してきた。とりわけ、実践分析については、土崎空襲を題材にした小・中・高校のそれぞれの実践に関して、近隣の全学校、すなわち小学校5校、中学校3校、高校1校のそれぞれの実践について、どのように戦争遺跡を学習活動に取り上げているのか、また単元構成の中でどのように位置付けているのかを視点として検討してきた。戦争遺跡の多様な活用として、(1)平和学習としての活用、(2)キャリア教育や「生き方」教育としての活用、(3)身近な地域理解学習としての活用、(4)修学旅行の一環として沖縄との比較研究としての活用、(5)課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成としての活用として5つに類型化し、それぞれの実践の特色を示した。

最後に、こうした戦争遺跡の多様な活用として、以下2点を挙げたい。

まず、第1点目として、戦争遺跡の学習財としてのより多様な開発についてである。本研究では、土崎空襲地近隣の小学校5校、中学校3校、高校1校について検討してきた。その取り扱いには既に示してきた通りであるが、総括すると戦争学習や平和学習のコンテキストで取り扱われている学校が3校（土崎小学校、土崎南小学校、秋田中央高校）で、やはり中心的なテーマとなっている。しかし、今回の実践研究では、存外こうした戦争学習や平和学習のコンテキストではない、実に多様な実践が行われていることを見出すことができた。前述したように、キャリア教育や「生き方」教育として取り上げている飯島南小学校、同じく過去を振り返り、現在を見つめ、

未来の生き方を考えるとして「生き方」教育として取り上げている飯島小学校、児童たちの身近な地域理解学習として展開している港北小学校、修学旅行との関連で沖縄との比較研究の一環として取り上げている下浜中学校、課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成として取り上げている土崎中学校などの諸実践である。とりわけ飯島南小学校では、前述したように「今輝いている人に学ぶ」（全15時間）で、特に「生き方」教育として、命に関わる生き方をしている人から学ぶとして「救急救命士」「助産師」「平和活動家」の三例を挙げ、このうち「平和活動家」の生き方の中で高橋氏を招くなどして土崎空襲を取り上げていた。それゆえ、土崎空襲そのものは間接的学習対象として位置付けられ、むしろ土崎空襲と向き合い、今日まで地域での平和希求活動を続けてきた高橋氏の生き方そのものが直接的学習対象となっていた。戦争遺跡を通じて、戦争そのものや平和を考究する学習を展開するというより、戦後、そうした事実と向き合いどう生きてきたのかを学ぼうと言う実践である²⁹。戦争遺跡は、直接体験に基づく「語り部」減少の中で、「モノ」に語らせる学習財として今後益々重要となる題材であるが、それに関わって戦後生きてきた人達の生き方も含めた多様な実践の開発も求められるのではないか。

第2点目として、上記と関連した「死」と「生」に関する学習についてである。今回の土崎空襲に関わる近隣各学校の授業実践の検討では、戦争遺跡が実際には戦争学習や平和学習のみで活用されているのではない実態を見出すことができた。とりわけ、飯島南小学校や、飯島小学校に見られるように、戦争を題材とした学習が戦争そのものの学習（戦争の内容学習）だけではなく、その戦争における「死」と向き合うことで、「生」の学習、すなわち、これからの生き方を考える学習として展開でき得ることを示した実践に出会えたことは大きな収穫である。戦争における「死」は、いわば「社会的死」である。「社会的死」とは、いわゆる自然死ではなく、ある社会的事象や社会構造、社会制度、社会的問題など、何らかの社会的要因により死を迎えなければならなくなった「死」のことである。具体的には、戦死はもちろんのこと、事故死、犯罪による死、過労死、さらにいじめによる死なども含まれよう。こうした「社会的死」と向き合う時、その「死」が引き起こされた背景や要因となる社会的事象と向き合うこと

が可能になる。また、そうした「死」と向き合うことで、これからの生き方を考える「生」の学習も可能になるのである。戦争遺跡が、こうした「社会的死」と向き合う学習財として活用されている実態は、戦争遺跡の多様な活用を示唆するものである。

さて、この他にも、昨年度の論稿で指摘したように、早急な複合的・総合的戦争遺跡のアーカイブの必要性、さらにその時だけのイベント的単発的取り扱いではない、戦争遺跡活用の恒常化の必要性などの課題も挙げられる。

戦後60年以上を経て、かつて肉親や地域の人々の語りや物語っていた切実感、臨場感も含めた戦争に対する豊かな感性的認識が必要とされている。そうした中、やはり戦争遺跡は注目される題材であり、教科教育や「総合的な学習の時間」、学校行事など多様な学校教育実践の中で、より発展的に多様に活用され得る学習材なのである。

¹ 拙稿「戦争遺跡のアーカイブと歴史教育における活用－秋田県を事例として－」秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要編集委員会編『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』第30号、(秋田大学教育文化学部附属教育実践総合センター、2008年)、13-31頁。

² 「近代遺跡」としての調査は、1996(平成8)年7月より文化庁文化財部記念物課が中心に関わっている調査である。これに先駆けて、1990・91(平成2・3)年に同じ文化財部の参事官(建造物)が主導し実施された調査は「近代化遺産」として調査されている。この「近代化遺産」に関わる調査は、実際には、各都道府県の教育委員会が中心となり実施され、報告書もまとめられている。(秋田県教育委員会編『秋田県文化財調査報告書第218集 秋田県の近代化遺産－日本近代化遺産総合調査報告書－』(秋田県教育委員会、1992年)参照)。本研究で取り上げるのは、前者の「近代遺産」としての調査である。

³ 国による登録制度は、1996(平成8)年の文化財保護法の改正により、指定制度を補完するものとして導入された。登録制は、法令や条例などにより規制が及ぶ指定制とは違い、届出制と指導、助言、勧告を基本とする緩やかな保護措置を講じて所有者の自主的な保護に期待するものである。建造物について先行導入されたが、これは建造物は、

①開発の進展に伴う取り壊しの危機に瀕するものが多いこと、②一定の対象物件が把握されていること、などによるものである。建造物以外の有形文化財については、引き続き保護手法の在り方が検討されてきた。いずれにしろ、直ちに既存の指定制度による指定を行うことは困難であるが、放置しておくことと消滅等の可能性が高く、保護が望まれる状況にあるとの結論から、この文化財保護法の改正において、建造物以外の有形文化財、有形の民俗文化財および記念物にも登録制度が拡充された(文化財保護法第三章第二節第90条、第132条、第133条関係、佐々木利和「登録制度の拡充」文化庁文化財部監修『月刊 文化財五月号』第500号(第一法規、2005年)、25-28頁参照)。なお、県や市町村レベルでの登録制度は、国に先駆けて導入されているところや未だ導入されていないところもあり、秋田県下では未だ導入されていない。

⁴ 北海道遺産とは、北海道に係る自然・文化・産業などの中から、次世代へ継承したいものとして北海道遺産構想推進協議会が選定した有形無形の財産群である。現在52件が指定されている。1997年4月に、当時の堀達也北海道知事により提唱された「北の世界遺産構想」が始まりで、同年8月に北海道庁内に設置された「北の世界遺産推進方策検討プロジェクトチーム」により1999年5月に発表された報告書によって、北海道遺産構想の枠組みが出来上がった。1999年から2000年にかけて候補を公募し、北海道遺産構想推進協議会(2001年設立)により選定が実施され、同年10月22日、応募総数約1万6000件の中から第1回選定分の25件が決定した。2003年、第2回選定分の候補が公募され、応募総数9107件の中から、翌2004年10月22日に第2回選定分27件が決定している。

⁵ 横須賀市は「市民文化資産指定・補助要綱」(昭和63年7月1日)の第2条において以下のように規定している。(横須賀市HPによる)

「第2条 この要綱において『市民文化資産』とは、文化財保護法(昭和25年法律第214号)、神奈川県文化財保護条例(昭和30年神奈川県条例第13号)及び文化財保護条例(昭和39年横須賀市条例第41号)の規定により指定を受けた文化財以外のもので、次に掲げるものをいう。

(1) 有形文化資産 建造物、絵画、彫刻、工

- 芸品その他の有形の文化的所産で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。
- (2) 無形文化資産 演劇、音楽、工芸技術、年中行事その他の無形の文化的所産で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。
- (3) その他の文化資産 史跡、名勝地、動物、植物、地質鉱物で、文化の振興を図るうえで重要なものをいう。」
- ⁶ 戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料参照。
- ⁷ 千葉県の場合、この南房総市の「大房岬要塞群」の他、館山市の「海軍航空隊地下要塞赤山地下壕」を代表する戦跡が約50カ所を数え、2002年には市が「平和学習の拠点」を目指し、戦争遺跡の調査研究委員会を作っている。市民運動として、戦跡ガイドのNPOも結成され、市民レベルでのガイドやフィールドワークも盛んに展開されている。（「みつめ伝える街角の戦跡 足元の遺産今に生かした『平和学習』で街づくり」朝日新聞（2004年8月14日）、23頁参照）
- ⁸ 秋田県下の戦争遺跡については、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室に直接確認している。とりわけ、先の1996（平成8）の文化庁文化財部による「近代遺跡調査」への報告資料も担当官に確認していただいているが、戦争遺跡としてリストアップされたものは1件もなかったとの確認を得ている。
- ⁹ 土崎港被爆市民会議編『はまなすはみたー土崎空襲のはなし』（秋田文化出版社、1981年）。
- ¹⁰ 土崎港被爆市民会議、佐々木久春編『証言・土崎空襲』（無明舎、1992年）。
- ¹¹ 土崎港被爆市民会議編『新はまなすはみたー語りつく土崎空襲ー』（秋田文化出版社、2002年）。
- ¹² 花岡事件五十周年記念誌編集委員会編『花岡事件五十周年記念誌』（花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会、1995年）
- ¹³ 花岡事件六十周年記念誌編集委員会編『花岡事件六十周年記念誌』（花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会、2005年）
- ¹⁴ 秋田市編『秋田市史 第五巻 近現代Ⅱ通史編』（秋田市、2005年）、183-188頁参照。
- ¹⁵ ただし、飯島中学校は、担当の先生に聞き取りした所、該当する実践は全く行っていないとのお答えだったので、本研究では取り上げていない。
- ¹⁶ 実践の内容に関しては、同小学校の結城浩三教頭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。
- ¹⁷ 実践の内容に関しては、同小学校の竹内史子教諭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。内容は前掲書1と同様であるが、地域全体の実践を網羅して掲載したいため、再度掲載している。
- ¹⁸ さらに、「今後の学習の発展として考えられる展開」として「プロジェクト4 土崎空襲を伝えよう Part 3～土崎空襲の悲劇を伝える会を開こう～」「プロジェクト5 土崎空襲を伝えよう Part 4～高清水小学校の6年生にも伝えよう～」も構想されている。
- ¹⁹ 実践の内容に関しては、同高校の石塚淳子教諭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。掲載内容は、前掲註17と同様である。
- ²⁰ 実践の内容に関しては、同小学校の佐藤幸子教諭、伊勢忠彦教諭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。
- ²¹ 前掲註20の教諭からの提供資料による。
- ²² 実践の内容に関しては、同小学校の佐々木衛教諭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。
- ²³ 飯島南小学校研究同人編『平成19年度飯島南小学校研究のまとめ ゆめ きらり「飯島南小キャリア教育」3年次の歩み』（飯島南小学校、2007年）参照。
- ²⁴ 実践の内容に関しては、同小学校の鈴木勇幸教頭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。掲載内容は、前掲註17と同様である。
- ²⁵ 実践の内容に関しては、同中学校の吹谷えり子教諭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。掲載内容は、前掲註17と同様である。
- ²⁶ 「S-WAVE」, 「Shine, Shimohama Willingly Ability Emotion, Experience（輝く、下浜の生徒が喜んで取り組み 能力を発揮し 自主的に学習し 感動を得る、経験をもつ）」の意味をこめて命名されている。（秋田市立下浜中学校編『平成19年度 下浜教育』（秋田市立下浜中学校、2007年）、45-49頁参照）。
- ²⁷ 秋田市立下浜中学校編『平成18年度 総合的な学習に時間レポート集 S-WAVE第4集 テーマ～「日本・ニッポン・Nippon」』（秋田市立下浜中学校、2006年）、9-31頁参照
- ²⁸ 実践の内容に関しては、同中学校の佐藤孝教頭に聞き取りを実施し、詳細を伺っている。

²⁹ このように、戦中の被害的事実や加害的事実など二項対立的に取り扱う実践ではなく、戦中の事実と向き合い戦後にどう生きてきたのかを学ぼうと言う実践は、同じ秋田県での花岡事件を取り上げ、授業実践を試みている。拙稿「花岡事件を事例とした歴史教育実践の構築－加害的側面を受け止めた地域の平和希求活動を重視して－」花岡事件六十周年記念誌編集委員会編『花岡事件六十周年記念誌』（花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会、2005年）、250-269頁参照。

Summary

This is a continuously study of the last paper. The research under discussion collected data on some of war sites across japan, especially those related to investigations into modern historical remains, and analyzed them though categorization. Then, the research examined how such data are being used in actual teaching by focusing on the case of schools on the Tsuchizaki aria, where the Tsuchizaki Air Raids was taken up as a topic of teaching.

Key Words : War-Related Sites, History Education,
The Tsuchizaki Air Raids

(Received February 12, 2009)

資料1 全国の指定・登録戦争遺跡一覧(2008年8月現在で144件)

都道府県	所在地	遺跡	内容	類型	国指定	県指定	市町村指	国登録	市町村登	道過市資	
北海道(24, 1増)	札幌市	琴似屯田兵兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地	○						
	札幌市	新琴似屯田兵中隊本部	屯田兵中隊本部	①政治・行政			○				
	札幌市	西園水源地取水塔	水源地取水塔	⑤居住地				○			
	旭川市	陸軍第7師団借行社	借行社	①政治・行政	○						
	旭川市	陸軍第7師団騎兵第7連隊覆馬場	騎兵連隊覆馬場	②軍事・防衛				○			
	旭川市	水山屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地			○				
	江別市	野幌屯田兵第2中隊本部	屯田兵中隊本部	①政治・行政		○					
	江別市	江別屯田兵大隊本部火薬庫	屯田兵大隊本部火薬庫	②軍事・防衛		○					
	滝川市	滝川屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	滝川市	屯田兵第2大隊第3中隊文書	中隊文書	⑧その他				○			
	滝川市	屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	滝川市	屯田歩兵第1大隊本部	屯田歩兵大隊本部	①政治・行政				○			
	滝川市	屯田兵監の塚	屯田兵監の塚	②軍事・防衛				○			
	美瑛市	美瑛屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	根室市	和屯田兵大隊本部被服庫	屯田兵大隊本部被服庫	②軍事・防衛				○			
	厚岸町	太田屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	室蘭市	輪西屯田兵火薬庫	屯田兵火薬庫	②軍事・防衛				○			
	士別市	士別屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	北見市	野付屯田第4大隊第1中隊本部被服糧秣庫	屯田兵中隊本部被服糧秣庫	②軍事・防衛				○			
	稚内市	大岬海軍望楼	海軍望楼	②軍事・防衛				○			
	釧路町	釧路屯田兵屋	屯田兵兵屋	⑤居住地				○			
	美瑛町	陸軍演習場蔵舎門柱	陸軍演習場蔵舎門柱	②軍事・防衛				○			
	上富良野町	東中尋常高等小学校御真影奉置所	御真影奉置所	⑧その他				○			
	☆函館市	函館山と砲台跡	砲台跡	②軍事・防衛				○			
		計		2	5	14	2		1(1増)		
青森県(4)	青森市	幸畑陸軍墓地	陸軍墓地	⑥埋葬				○			
	青森市	陸軍歩兵第5連隊第2大隊遺蹟記念碑	遺蹟記念碑	⑧その他				○			
	弘前市	陸軍第8師団借行社	借行社	①政治・行政	○						
	弘前市	陸軍第8師団官舎	陸軍師団官舎	①政治・行政				○			
		計		1		2	1				
宮城県(1)	仙台市	陸軍第2師団歩兵第4連隊兵舎	陸軍歩兵連隊兵舎	①政治・行政				○			
		計				1					
栃木県(1)	宇都宮市	陸軍第66歩兵連隊倉庫	陸軍歩兵連隊倉庫	②軍事・防衛				○			
		計					1				
群馬県(4)	高崎市	高崎陸軍元ロシア人兵士墓地	墓地	⑥埋葬				○			
	長野原町	防空監視哨	防空監視哨	②軍事・防衛				○			
	みどり市	東村防空監視哨	防空監視哨	②軍事・防衛				○			
	渋川市	敷島小学校奉安殿	奉安殿	⑧その他				○			
			計				4				
埼玉県(1)	深谷市	東京第2陸軍造兵廠深谷製造所給水塔	造兵廠製造所給水塔	③生産				○			
		計					1				
千葉県(17)	千葉市	陸軍鉄道第1連隊材料廠	陸軍鉄道連隊材料廠	⑦交通		○					
	習志野市	陸軍鉄道第2連隊正門	陸軍鉄道連隊正門	⑦交通				○			
	習志野市	陸軍演習場内閣樓	陸軍演習場内閣樓	②軍事・防衛				○			
	館山市	海軍航空隊地下要塞赤山地下壕	海軍航空隊地下要塞赤山地下壕	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞弾薬庫	弾薬庫	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞弾薬庫①	弾薬庫	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞砲台跡①	砲台跡	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞砲台跡②	砲台跡	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞砲台跡③	砲台跡	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞観測所跡	観測所跡	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞探照灯格納庫	探照灯格納庫	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞探照灯格納庫	探照灯格納庫	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞発電所	発電所	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞火薬庫	火薬庫	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞射撃場	射撃場	②軍事・防衛				○			
	南房総市	大房岬要塞魚雷艇発信所	魚雷艇発信所	②軍事・防衛				○			
	いづみ市	桜花43乙型格納庫・旋回盤	格納庫・旋回盤	②軍事・防衛				○			
			計			1		2			
	東京都(5)	千代田区	近衛師団司令部庁舎	近衛師団司令部庁舎	①政治・行政	○		14			
		板橋区	佐藤機工記念碑	記念碑	③生産					○	
東大和市		日立航空機立川工場変電所	航空機工場変電所	③生産				○			
八王子市		八王子空襲記録写真原簿	空襲記録写真原簿	⑧その他				○			
武蔵村山市		東京陸軍幼年飛行兵学校正門跡	陸軍幼年飛行兵学校正門跡	①政治・行政				○			
			計		1		3			1	
神奈川県(9, 5増)	横須賀市	海軍軍港水道水源地煉瓦造貯水池	貯水池	⑤居住地				○			
	横須賀市	横須賀軍港水道水源地鉄筋コンクリート造貯水池	貯水池	⑤居住地				○			
	☆横須賀市	遠見冷水場ベンチエリーメーター室	冷水場	⑤居住地				○			
	☆横須賀市	遠見冷水場配水池入口2棟	冷水場	⑤居住地				○			
	☆横須賀市	遠見冷水場機連通過池調整室4棟	冷水場	⑤居住地				○			
	☆横須賀市	旧横須賀重砲兵連隊営門	重砲兵連隊営門	②軍事・防衛				○		○	
	☆横須賀市	遠見澄止場衛門	澄止場衛門	②軍事・防衛				○		○	
	相模原市	陸軍通信学校校務集会所	陸軍通信学校校務集会所	①政治・行政				○			
相模原市	陸軍通信学校校務集会所庭園	庭園	①政治・行政				○				
		計				5(3増)		2	2(2増)		
新潟県(1)	上越市	陸軍第13師団師団長官舎	陸軍師団長官舎	①政治・行政				○			
		計				1					
石川県(3)	金沢市	陸軍第9師団兵器庫	陸軍師団兵器庫	②軍事・防衛	○						
	金沢市	陸軍第9師団司令部庁舎	陸軍師団司令部庁舎	①政治・行政				○			
	金沢市	陸軍金沢借行社	借行社	①政治・行政				○			
		計		1				2			
山梨県(2, 1増)	甲府市	甲府第49連隊糧秣庫	糧秣庫	②軍事・防衛				○			
	☆南アルプス市	ロクコ(御動河原飛行場跡)3号機体壕	機体壕	②軍事・防衛				○			
		計				1(1増)		1			
静岡県(3)	静岡市	清水区彌生寺本堂扁額	扁額	⑧その他					○		
	一宮市	旧起第2尋常小学校奉安殿	奉安殿	⑧その他				○			
	浜松市	引佐町凱旋記念門	記念門	⑧その他				○			
		計					2		1		
愛知県(7)	名古屋市	乃木倉庫	倉庫	②軍事・防衛				○			
	豊橋市	陸軍第15師団司令部庁舎	陸軍師団司令部庁舎	①政治・行政				○			
	半田市	中島飛行場半田製作所衣糧倉庫	製作所衣糧倉庫	③生産				○			
	尾張旭市	兵器製造本社事務棟	兵器製造本社事務棟	③生産				○			
	大山市	明治村名古屋南病院	病院	①政治・行政		○					

都道府県	市町村	指定文化財	国登録文化財	市町村指定文化財	「国登録」は国登録文化財	「市町村指定」は市町村指定文化財	「国登録」は国登録文化財	「市町村指定」は市町村指定文化財	「道遺産」は道遺産	「市文化遺産」は市文化遺産
三重県(3)	大山市	明治村歩兵第6連隊兵舎	歩兵連隊兵舎		①政治・行政					
	瀬戸市	法雲寺梵鐘	梵鐘		⑧その他					
	鈴鹿市	北伊勢陸軍飛行場掩体	陸軍飛行場掩体		②軍事・防衛	1	1	5		
京都府(10, 3増)	津市	栗松長被爆墓石	被爆墓石		④戦闘地・戦場					
	熊野市	紀和町英国兵捕虜墓地	外国兵捕虜墓地		⑥埋葬					
	京都市	外務省東方文化研究所	研究所		①政治・行政					
	京都市	近鉄淡川橋梁	橋梁		⑦交通					
	舞鶴市	舞鶴鎮守府水道施設	鎮守府水道施設		⑤居住					
	舞鶴市	神崎赤煉瓦ホフマン窯	煉瓦窯		③生産					
	舞鶴市	舞鶴鎮守府水源地堰堤	堰堤		⑤居住					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫	水雷庫		②軍事・防衛					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠子備艦兵器庫	兵器庫		②軍事・防衛					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠九庫並小銃庫	海九庫 小銃庫		②軍事・防衛					
舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠雑兵器庫並預兵器庫	雑兵器庫 預兵器庫		②軍事・防衛						
舞鶴市	舞鶴海軍需品庫並軍需庫	軍需品庫 軍需庫		②軍事・防衛						
兵庫県(1)	姫路市	第10師団兵器庫	兵器庫		②軍事・防衛	5(4増)		5		
	鳥取県(2)	浜田市	歩兵第21連隊雨覆練兵場	雨覆練兵場(浜田高校内)	②軍事・防衛			1		
岡山県(1)	岡山市	歩兵第22連隊雨覆練兵場	雨覆練兵場(第一中学校内)		②軍事・防衛			1		
	岡山市	陸軍第17師団司令部衛兵所	陸軍衛兵所		②軍事・防衛			2		
広島県(7)	広島市	原爆ドーム	原爆ドーム・歩哨所・日銀		④戦闘地・戦場					
	広島市	広島陸軍機械支廠缶詰工場	缶詰工場		③生産					
	広島市	日本銀行広島支店	日本銀行広島支店		③生産					
	広島市	海軍兵衛守府司令長官官舎	司令長官官舎 江田島兵学校		①政治・行政					
	呉市	海軍工廠臨時計	海軍工廠臨時計		③生産					
	呉市	入船記念船東郷家住宅離れ	住宅離れ		⑤居住					
	呉市	呂原浄水場低区配水池	配水池		⑤居住					
徳島県(2)	鳴門市	坂東俘虜収容所安芸家バラック	俘虜収容所		⑤居住					
	鳴門市	坂東俘虜収容所榎本家バラック	俘虜収容所		⑤居住					
香川県(3)	普通寺市	普通寺陸軍第11師団僧行社	僧行社		①政治・行政					
	普通寺市	普通寺陸軍第11師団司令部庁舎	陸軍師団司令部庁舎		①政治・行政					
	普通寺市	普通寺陸軍第11師団兵舎棟	兵舎棟		②軍事・防衛					
高知県(1)	南国市	海軍高知航空隊機庫群(7基)	トーナカ・掩体庫		②軍事・防衛	1		2		
	福岡県(1)	行橋市	稲童1号掩体庫	掩体庫	②軍事・防衛			1		
長崎県(6, 1増)	長崎市	大浦天主堂	天主堂		④戦闘地・戦場					
	長崎市	平和公園	平和公園		④戦闘地・戦場					
	長崎市	山王神社の大楠	大楠		④戦闘地・戦場					
	島原市	からゆき塔女のドーム	ドーム		④戦闘地・戦場					
	佐世保市	海軍佐世保鎮守府凱旋記念館	凱旋記念館		⑧その他					
	大村市	第21海軍航空隊本部防空壕	海軍航空隊本部防空壕		②軍事・防衛					
大分県(3)	宇佐市	城井1号掩体庫	掩体庫・エンジン調整室		②軍事・防衛					
	宇佐市	高層地下壕	地下壕		⑤居住					
	佐伯市	佐伯海軍航空隊機庫	機庫・燃料庫・戦闘指揮所		②軍事・防衛					
鹿児島県(14, 1増)	薩摩川内市	天狗鼻海軍望楼台	海軍望楼台		②軍事・防衛					
	始良町	山田の凱旋門	凱旋門		⑧その他					
	知覧町	陸軍知覧飛行場給水塔	飛行場給水塔		②軍事・防衛					
	知覧町	陸軍知覧飛行場内形防火水槽	飛行場防火水槽		②軍事・防衛					
	知覧町	陸軍知覧飛行場弾薬庫	飛行場弾薬庫		②軍事・防衛					
	知覧町	陸軍知覧飛行場着陸訓練施設鎮礎	着陸訓練施設鎮礎		②軍事・防衛					
	瀬戸内町	吉仁屋小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	瀬戸内町	筋子小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	瀬戸内町	池地小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	瀬戸内町	壺川小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	瀬戸内町	須子小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	瀬戸内町	日本志小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	伊仙町	黒浦小学校旧奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	大和村	今里小中学校奉安殿	奉安殿		⑧その他					
沖縄県(8)	沖縄市	美里国民学校奉安殿	奉安殿		⑧その他					
	沖縄市	美里国民学校忠魂碑	忠魂碑		⑥埋葬					
	南風原町	南風原陸軍病院療養群	陸軍病院療養群		①政治・行政					
	伊江村	公益質屋	公益質屋		⑧その他					
	渡嘉敷村	旧日本軍特攻艇格納庫	特攻艇格納庫		②軍事・防衛					
	渡嘉敷村	集団自決跡地	集団自決跡地		④戦闘地・戦場					
	宮古島市	ヌーザランミ海軍特攻艇格納庫	特攻艇格納庫		②軍事・防衛					
	宜野座村	沖縄戦関連宜野座村歴史資料館	歴史資料館		⑧その他					
					計		2	12(1増)		
					計				8	

・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料より作成。

・14件(前年比12件増)の内訳は、全国28都道府県で、国指定文化財16件(6件増)、県指定文化財7件、市区町村指定文化財63件、国登録文化財51件(3件増)、市区町村登録文化財4件、道遺産・市文化遺産3件である。

・「☆」は、新しく追加された文化財、「★」は指定・登録が変更になった文化財。

・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市区町村指定」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市町村指定」は市区町村指定文化財、「道遺産」は道遺産・市文化遺産を指す。

・「類型」については、以下の通り。

①政治・行政：政治・行政関係で、陸軍省・海軍省などの中央官衙・官庁、大本営、師団司令部、連隊本部などの地方官衙・官庁、陸軍病院、陸軍学校、研究所など

②軍事・防衛：軍事防衛関係で、軍事的な要塞(堡塁・砲台)、高射砲陣地、陸海軍の飛行場、陸軍演習場、練兵場、通信所、軍港、ガマなどの洞窟陣地、特攻隊基地、待避壕、掩体庫(飛行場の格納庫)、戦車庫、試射場、監視哨(空襲に備えての敵機の監視台)、爆弾・毒ガスの埋納地など

③生産：生産関係で、陸軍造兵廠、航空機製作工場などの軍需工場、経済統制を受けた工場、地下軍需工場、或山跡など

④戦闘地・戦場：戦闘地・戦場関係で、沖縄戦関係で、沖縄戦関係で、硫黄島の戦闘が行われた地域、東京・大阪・名古屋などの空襲被災地、広島・長崎の原爆被災地、爆弾の墜落地など

⑤居住：居住関係で、外国人強制連行居住地、防空壕、捕虜収容所、満州開拓村など

⑥埋葬：埋葬関係で、陸海軍墓地、捕虜墓地、忠魂碑(戦死者の記念碑)など

⑦交通：交通関係で、軍用鉄道軌道、軍用道路など

⑧その他：航空機の墜落跡、奉安殿(天皇の「御真影」を祀る社)、戦争に関わる学校、学童疎開所、二宮金次郎像、軍・労務慰安所、戦争忌避地など

・なお北海道の「旧陸軍第7師団関係遺跡」や広島の「旧海軍呉鎮守府及び海軍工廠関係遺跡」「旧陸軍雲予要塞大野島砲台及び旧陸軍道兵廠忠海兵器製造所」のような複合的遺跡の場合は、重複を避けるため「②軍事・防衛」としている。

資料2 各都道府県別指定・登録戦争遺跡数(2008年8月現在)

都道府県	国指定	県指定	市町村指定	国登録	市町村登録	道遺市資	合計
北海道	2	5	14	2		1(1増)	24(1増)
青森県	1		2	1			4
宮城県			1				1
栃木県				1			1
群馬県			4				4
埼玉県				1			1
千葉県		1	14	2			17
東京都	1		3		1		5
神奈川県				5(3増)	2	2(2増)	9(5増)
新潟県			1				1
石川県	1			2			3
山梨県				1	1(1増)		2(1増)
静岡県				2	1		3
愛知県		1	1	5			7
三重県			2	1			3
京都府	5(4増)		(1減)	5			10(3増)
兵庫県				1			1
鳥取県				2			2
岡山県				1			1
広島県	2		3	2			7
徳島県				2			2
香川県	1			2			3
高知県			1				1
福岡県			1				1
長崎県	2(1増)		3	1			6(1増)
大分県			2	1			3
鹿児島県			2	12(1増)			14(1増)
沖縄県			8				8
合計	16(11.1) (5増)	7(4.9)	63(43.8)	51(35.4) (4増)	4(2.8)	3(2.1) (新設)	144 (12増)

・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料より作成。

・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市町村指」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市町村登」は市区町村登録文化財、「道遺市資」は道遺産・市民文化資産を指す。

・「合計」の()内は%

資料3 全国の指定・登録戦争遺跡類型化(2008年8月現在で144件)

都道府県	所在地	遺跡	指定・登録	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他	
北海道(24, 1増)	札幌市	琴似屯田兵村兵屋	国指定					○				
	札幌市	新琴似屯田兵中隊本部	市町村指定	○								
	札幌市	西岡水源地取水塔	国登録					○				
	旭川市	陸軍第7師団僧行社	国指定	○								
	旭川市	陸軍第7師団騎兵第7連隊覆馬場	国登録		○							
	旭川市	永山屯田兵屋	市町村指定					○				
	江別市	野幌屯田兵第2中隊本部	県指定	○								
	江別市	江別屯田兵大隊本部大薬庫	県指定		○							
	滝川市	滝川屯田兵屋	市町村指定					○				
	滝川市	屯田兵第2大隊第3中隊文書	市町村指定					○			○	
	深川市	屯田兵屋	市町村指定					○				
	深川市	屯田歩兵第1大隊本部	市町村指定	○								
	深川市	屯田兵監の塚	市町村指定		○							
	美瑛市	美瑛屯田兵屋	県指定					○				
	根室市	和田屯田兵村大隊本部被服庫	県指定		○							
	厚岸町	太田屯田兵兵屋	県指定					○				
	室蘭市	輪西屯田兵大薬庫	市町村指定		○							
	士別市	士別屯田兵屋	市町村指定					○				
	北見市	野付屯田第4大隊第1中隊本部被服糧秣庫	市町村指定		○							
	稚内市	大押海軍望楼	市町村指定		○							
	剣淵町	剣淵屯田兵屋	市町村指定					○				
	美瑛町	陸軍演習場敵舎門柱	市町村指定		○							
	上富良野町	東中尋常高等小学校御真影奉置所	市町村指定								○	
	☆函館市	函館山と砲台跡	道道市資		○							○
		計		4	9(1増)			9			2	
青森県(4)	青森市	幸畑陸軍墓地	市町村指定						○			
	青森市	陸軍歩兵第5連隊第2大隊遺跡記念碑	市町村指定								○	
	弘前市	陸軍第8師団僧行社	国指定	○								
	弘前市	陸軍第8師団官舎	国登録	○								
		計		2					1		1	
宮城県(1)	仙台市	陸軍第2師団歩兵第4連隊兵舎	市町村指定	○								
		計		1								
栃木県(1)	宇都宮市	陸軍第66歩兵連隊倉庫	国登録		○							
		計			1							
群馬県(4)	高崎市	高崎陸軍元ロシア人兵士墓地	市町村指定						○			
	長野原町	防空監視哨	市町村指定		○							
	みどり市	東村防空監視哨	市町村指定		○							
	渋川市	蒙島小学校奉安殿	市町村指定		○						○	
		計			2				1		1	
埼玉県(1)	深谷市	東京第2陸軍造兵廠深谷製造所給水塔	国登録			○						
		計			1							
千葉県(17)	千葉市	陸軍鉄道第1連隊材料廠	県指定								○	
	習志野市	陸軍鉄道第2連隊正門	国登録								○	
	習志野市	陸軍演習場内圍壁	国登録								○	
	館山市	海軍航空隊地下要舎赤山地下壕	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群薬庫①	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群薬庫②	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡①	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡②	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群砲台跡③	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群観測所跡	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群掩灯所	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群探照灯格納庫	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群発電所	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群火薬庫	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群射的場	市町村指定		○							
	南房総市	大房岬要塞群魚雷艇発信所	市町村指定		○							
	いずみ市	桜花43乙型格納庫・旋回壁	市町村指定		○							
			計			15						2
	東京都(5)	千代田区	近衛師団司令部庁舎	国指定	○							
板橋区		圧磨機圧縮記念碑	市町村登録			○						
東大和市		日立航空機立川工場変電所	市町村指定			○						
八王子市		八王子空襲記録写真原簿	市町村指定								○	
武蔵村山市		東京陸軍幼年少年飛行兵学校正門跡	市町村指定	○								
			計		2		2					1
神奈川県(9, 5増)	横須賀市	海軍軍港水道走水源地煉瓦造貯水池	国登録					○				
	横須賀市	横須賀軍港水道走水源地鉄筋コンクリート造浄水池	国登録					○				
	☆横須賀市	逸見浄水場ベンチュリメーター室	国登録					○				
	☆横須賀市	逸見浄水場配水池入口2棟	国登録					○				
	☆横須賀市	逸見浄水場緩速濾過池調整室4棟	国登録					○				
	☆横須賀市	旧横須賀重砲兵連隊営門	道道市資		○							
	☆横須賀市	逸見波止場衛門	道道市資									
	相模原市	陸軍通信学校将校集会所	市町村登録	○								
相模原市	陸軍通信学校将校集会所庭園	市町村登録	○									
		計		2	2(2増)			5(3増)				
新潟県(1)	上越市	陸軍第13師団師団長官舎	市町村指定	○								
		計		1								
石川県(3)	金沢市	陸軍第9師団兵器庫	国指定		○							
	金沢市	陸軍第9師団司令部庁舎	国登録	○								
	金沢市	陸軍金沢僧行社	国登録	○								
			計		2	1						
山梨県(2, 1増)	甲府市	甲府第49連隊糧秣庫	国登録									
	☆南アルプス市	ロタコ(御勅使河原飛行場跡)3号掩体壕	市町村指定		○							
		計			2(1増)							
静岡県(3)	静岡市	清水区福壽寺本堂扁額	市町村登録								○	
	一宮市	旧起第2尋常小学校奉安殿	国登録								○	
	浜松市	引佐町凱旋記念門	国登録								○	
		計									3	

愛知県(7)	名古屋	乃木倉庫	国登録		○						
	豊橋	陸軍第15師団司令部庁舎	国登録	○							
	半田市	中島飛行場半田製作所衣糧倉庫	国登録			○					
	尾張旭市	旭兵器製造本社事務棟	国登録			○					
	大山市	明治村名古屋衛戍病院	県指定	○							
	大山市	明治村歩兵第6連隊兵舎	国登録	○							
	瀬戸市	法雲寺梵鐘	市町村指定							○	
		計		3	1	2				1	
三重県(3)	鈴鹿市	北伊勢陸軍飛行場機庫	国登録			○					
	津市	栗松院被爆墓石	市町村指定						○		
	熊野市	紀和町英国兵捕虜墓地	市町村指定						○		
		計			1			1		1	
京都府(10, 3増)	京都市	外務省東方文化研究所	市町村指定	○							
	京都市	近鉄淀川橋梁	市町村指定							○	
	舞鶴市	舞鶴鎮守府水道施設	国指定					○			
	舞鶴市	神崎赤煉瓦ホフマン窯	市町村指定			○					
	舞鶴市	海軍鎮守府水源地環堤	市町村指定					○			
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫	国指定			○					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠予備砲兵器庫	市町村指定			○					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠弾丸庫並小銃庫	国指定			○					
	舞鶴市	舞鶴海軍兵器廠砲庫並預兵器庫	国指定			○					
		計	1		5(3増)	1		2		1	
兵庫県(1)	姫路市	第10師団兵器庫	国登録			○					
		計			1						
鳥取県(2)	浜田市	歩兵第21連隊南覆練兵場	国登録			○					
	浜田市	歩兵第22連隊南覆練兵場	国登録			○					
		計			2						
岡山県(1)	岡山市	陸軍第17師団司令部衛兵所	国登録			○					
		計			1						
広島県(7)	広島市	原爆ドーム	国指定						○		
	広島市	広島陸軍種枝支廠詰工場	市町村指定				○				
	広島市	日本銀行広島支店	市町村指定				○				
	呉市	海軍呉鎮守府司令長官官舎	国指定	○							
	呉市	海軍工廠時計計	市町村指定				○				
	呉市	入船記念館東郷家住宅離れ	国登録						○		
	呉市	宮原浄水場低区配水池	国登録						○		
		計	1		3	1		2			
徳島県(2)	鳴門市	板東俘虜収容所安芸家バラック	国登録						○		
	鳴門市	板東俘虜収容所楠本家バラック	国登録						○		
		計						2			
香川県(3)	善通寺市	善通寺陸軍第11師団僧行社	国指定	○							
	善通寺市	善通寺陸軍第11師団司令部庁舎	国登録	○							
	善通寺市	善通寺陸軍第11師団兵舎棟	国登録			○					
		計	2		1						
高知県(1)	南国市	海軍高知航空隊機庫群	市町村指定			○					
		計			1						
福岡県(1)	行橋市	縮童1号機庫	市町村指定			○					
		計			1						
長崎県(6, 1増)	長崎市	大浦天主堂	国指定						○		
	長崎市	平和公園	国指定						○		
	長崎市	山王神社の大棟	市町村指定						○		
	高崎市	からゆき塔女のドーム	市長指定						○		
	佐世保市	海軍佐世保鎮守府凱旋記念館	国登録							○	
	大村市	第21海軍航空隊本部防空壕	市町村指定			○					
		計			1			4(1増)		1	
大分県(3)	宇佐市	城井1号機庫	市町村指定			○					
	宇佐市	高居地下壕	市町村指定						○		
	佐伯市	佐伯海軍航空隊機庫	国登録			○					
		計			2			1			
鹿児島県(14, 1増)	薩摩川内市	天狗鼻海軍望楼台	市町村指定			○					
	姶良町	山田の凱旋門	国登録							○	
	知覧町	陸軍知覧飛行場給水塔	市町村指定			○					
	知覧町	陸軍知覧飛行場円形防火水槽	国登録			○					
	知覧町	陸軍知覧飛行場弾薬庫	国登録			○					
	知覧町	陸軍知覧飛行場着陸訓練施設礎礎	国登録			○					
	瀬戸内町	古仁屋小学校旧奉安殿	国登録							○	
	瀬戸内町	節子小学校旧奉安殿	国登録							○	
	瀬戸内町	池地小学校旧奉安殿	国登録							○	
	瀬戸内町	薩川小学校旧奉安殿	国登録							○	
	瀬戸内町	須子小学校旧奉安殿	国登録							○	
	瀬戸内町	旧木郷小学校旧奉安殿	国登録							○	
	伊仙町	鹿浦小学校旧奉安殿	国登録							○	
	大和村	今里小中学校奉安殿	国登録							○	
		計			5					9(1増)	
沖縄県(8)	沖縄市	美里国民学校奉安殿	市町村指定							○	
	沖縄市	美里国民学校忠魂碑	市町村指定							○	
	南風原町	南風原陸軍病院壕群	市町村指定	○							
	伊江村	公益質屋	市町村指定								
	渡嘉敷村	旧日本軍特攻艇艇庫	市町村指定			○					
	渡嘉敷村	集団自決跡地	市町村指定					○			
	宮古島市	ヌーザランミ海軍特攻艇格納庫	市町村指定			○					
	宜野座村	沖縄戦関連宜野座村歴史資料館	市町村指定							○	
			計	1		2			1		3

・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料より作成。

・144件(前年比12件増)の内訳は、全国28都道府県で、国指定文化財16件(6件増)、県指定文化財7件、市区町村指定文化財63件、国登録文化財51件(3件増)、市区町村登録文化財4件、道遺産・市民文化遺産3件である。「☆」は、新しく追加された文化財。「★」は県指定・登録が変更になった文化財。

・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市町村指」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市町村登」は市区町村登録文化財、「道遺産」は道遺産・市民文化遺産を指す。

・「類型」については、資料1の通り。

資料4 都道府県別指定・登録戦争遺跡類型別数（2008年8月現在）

都道府県	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他	合計
北海道	4	9(1増)			9			2	24(1増)
青森県	2					1		1	4
宮城県	1								1
栃木県		1							1
群馬県		2				1		1	4
埼玉県			1						1
千葉県		15					2		17
東京都	2		2					1	5
神奈川県	2	2(2増)			5(3増)				9(5増)
新潟県	1								1
石川県	2	1							3
山梨県		2(1増)							2(1増)
静岡県								3	3
愛知県	3	1	2					1	7
三重県		1				1		1	3
京都府	1	5(3増)	1		2		1		10(3増)
兵庫県		1							1
鳥取県		2							2
岡山県		1							1
広島県	1		3	1	2				7
徳島県					2				2
香川県	2	1							3
高知県		1							1
福岡県		1							1
長崎県		1		4(1増)				1	6(1増)
大分県		2			1				3
鹿児島県		5						9(1増)	14(1増)
沖縄県	1	2		1		1		3	8
合計	22(15.3)	56(38.9) (7増)	9(6.3)	6(4.2) (1増)	21(14.6) (3増)	4(2.8)	3(2.1)	23(16.0) (1増)	144 (12増)

・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料より作成。

・144件（前年比12件増）の内訳は、全国28都道府県で、国指定文化財16件（6件増）、県指定文化財7件、市区町村指定文化財63件、国登録文化財51件（3件増）、市区町村登録文化財4件、道遺産・市民文化資産3件である。「☆」は、新しく追加された文化財、「★」は指定・登録が変更になった文化財。

・「合計」の（ ）内は%

・「類型」については、資料1の通り。

資料5 指定・登録ごとの戦争遺跡類型別数（2008年8月現在）

指定・登録	①政治・行政	②軍事・防衛	③生産	④戦闘地・戦場	⑤居住	⑥埋葬	⑦交通	⑧その他	合計
国指定	5	5(4増)		3(1増)	2				16(11.1) (5増)
県指定	2	2			2		1		7(4.9)
市区町村指定	6	30	4	3	6	4		10	63(43.8)
国登録	7	16	4		11(3増)		2	12(1増)	51(35.4) (4増)
市区町村登録	2		1					1	4(2.8)
道遺市資		3(3増)							3(2.1) (新設)
合計	22(15.3)	56(38.9) (7増)	9(6.3)	6(4.2) (1増)	21(14.6) (3増)	4(2.8)	3(2.1)	23(16.0) (1増)	144 (12増)

・戦争遺跡保存全国ネットワーク事務局北原高子氏提供資料より作成。

・表中の「国指定」は国指定文化財、「県指定」は県指定文化財、「市区町村指」は市区町村指定文化財、「国登録」は国登録文化財、「市区町村登」は市区町村登録文化財、「道遺市資」は道遺産・市民文化資産を指す。

・「合計」の（ ）内は%

・「類型」については、資料1の通り。

資料6 土崎空襲に関する近隣各学校の取り組みと単元構成

類型	(1)平和学習としての活用			(2)キャリア教育や「生き方」教育としての活用		(3)身近な地域理解学習としての活用	(4)沖縄との比較研究としての活用	(5)課題形成能力・課題解決能力・表現能力の育成としての活用
学校名	土崎小学校	土崎南小学校	秋田中央高校	飯島小学校	飯島南小学校	港北小学校	下浜中学校	土崎中学校
テーマ	戦争から平和への歩みを見直そう	平和の大切さを伝えていくために	戦後60周年土崎空襲展	飯島発 未来へつなぐ平和の思い	出会い 感動 がやがや命	土崎新発見 (この土崎から平和を譲って)	秋田・沖縄比較研究	自ら学び、自ら考え、主体的な判断をすることができる生徒の育成
時数	12	35		23	15	3/45	50	79 (1年生から2年生前期)
全体構成	<p>学年オリエンテーション(2)</p> <p>1 大昔の暮らしをのぞこう 03</p> <p>2 武士の世の中をさぐろう 09</p> <p>3 新しい日本の国づくりを見つめよう 04</p> <p>4 戦争から平和への歩みを見直そう 04</p> <p>5 暮らしと政治を調べてみよう 00</p> <p>6 世界の人々とのつながりを広げよう 00</p> <p>予備時間 02</p>	<p>修学旅行</p> <p>土崎空襲について知ろう 02</p> <p>土崎空襲を伝えよう 03</p> <p>輝いている人の生き方を探ろう</p> <p>描こう～自分なりのよりよい生き方プラン</p>		<p>オリエンテーション(2)</p> <p>わたしたちの旅づくり～仙台、松島大発見～09</p> <p>lijima縄文プロジェクト 00</p> <p>夏休みの自由研究 (事前3、事後2)</p> <p>飯島発 未来へつなぐ平和 04</p> <p>残そう！人類、地球へのメッセージ 03</p>	<p>宮沢賢治を調べよう (修学旅行との関連)</p> <p>戦争を調べよう</p> <p>今輝いている人に学ぶ 04</p>	<p>オリエンテーション(1)</p> <p>土崎のことについて調べよう (夏季課題)</p> <p>調べたことを発表しよう (3)</p> <p>活動計画を立てよう (3)</p> <p>訪問先を決め、準備をしよう (8)</p> <p>土崎の店や施設、活躍している方々を訪問しよう (4)</p> <p>土崎情報新聞にまとめよう (4)</p> <p>情報を発信しよう (6)</p> <p>この土崎から平和を譲って (3)</p>	<p>1 命の学習、「生き方」の学習 00</p> <p>(1)命の学習 (4)</p> <p>・薬物乱用防止教室</p> <p>・防犯教室</p> <p>(2)「生き方」の学習 (6)</p> <p>・老人福祉施設訪問交流体験</p> <p>2 スキル学習 00</p> <p>・訪問時のマナー、事前学習</p> <p>3 課題追究の時間 04</p>	<p>第1学年「郷土に学ぶ」04</p> <p>・入門期ミニスキル前期 04</p> <p>・入門期ミニスキル後期 04</p> <p>・自己課題設定期 04</p> <p>第2学年「日本に学ぶ」04</p> <p>・自己課題設定期 (5)</p> <p>・自己課題追求期 07</p> <p>第3学年「世界に学ぶ」04</p> <p>・修学旅行郊外学習 (8)</p> <p>・自己課題解決期 I 04</p> <p>・自己課題解決期 II 02</p> <p>・学習のまとめと発信 04</p>
単元構成	<p>オリエンテーション(1)</p> <p>1 戦争し人々の暮らし(6)</p> <p>2 平和で豊かな暮らしを目指して(4)</p> <p>まとめ(1)</p>	<p>●プロジェクト1 55年前に何が起きた？</p> <p>～土崎空襲について知る～ 02</p> <p>・活動の流れを把握する(1)</p> <p>・新聞の切り抜きから当時の様子を知る(1)</p> <p>・フィールドワークの事前準備(1)</p> <p>・フィールドワークの実施(4)</p> <p>・フィールドワークのまとめ(1)</p> <p>・空襲体験者からのお話(2)</p> <p>・伝えていくために(1)</p> <p>●プロジェクト2 土崎空襲を伝えよう Part1～土崎空襲コーナーに展示する資料を作成しよう～ (16)</p> <p>・どんな展示が必要か話し合い(3)</p> <p>・資料収集の計画(2)</p> <p>・資料収集(5)</p> <p>・資料をまとめる(5)</p> <p>・振り返り(1)</p> <p>●プロジェクト3 土崎空襲を伝えよう Part2</p> <p>～校内に土崎空襲コーナーをつくろう～ (16)</p> <p>・作成した資料を紹介(2)</p> <p>・展示の計画(2)</p> <p>・展示コーナーの作成(2)</p> <p>・振り返り(1)</p>	<p>●校内勉強会</p> <p>・土崎空襲の基礎的学習</p> <p>・フィールドワークの事前学習</p> <p>●フィールドワークの実施</p> <p>・被爆倉庫、受難碑など</p> <p>・国交通省秋田港湾事務所内資料室</p> <p>・体験談の聞き取り</p> <p>●資料調べ</p> <p>●展示準備</p> <p>●文化祭の実施</p> <p>・「土崎空襲展」の公開</p> <p>・「はますはみた」を解説</p> <p>・HPでの公開</p>	<p>●つむぎ(4)</p> <p>・社会科の学習の振り返り(1)</p> <p>・空襲体験者からのお話(2)</p> <p>・課題の設定と学習計画(1)</p> <p>●調べる・準備する(3)</p> <p>・土崎・飯島の戦時中の様子調べ (課外)</p> <p>・中間報告会 (0:5)</p> <p>・自分の課題の決定 (1:5)</p> <p>・学習計画(1)</p> <p>●深める 03</p> <p>・フィールドワーク、情報収集(3)</p> <p>・調査結果のまとめ 00</p> <p>・「飯島ピース会議」を開く(2)</p> <p>●振り返る(1)</p>	<p>●見つける (全体の学習計画)(3)</p> <p>●深める 00</p> <p>・本やインターネットでの事前学習(3)</p> <p>・学習会の準備 (2:5)</p> <p>・三者からのお話 (1:5)</p> <p>・交流会の準備(3)</p> <p>●広げる～交流会(2)</p>	<p>・空襲体験者からのお話(2)</p> <p>・感想をまとめ発表(1)</p>	<p>●テーマ追究の段階</p> <p>・事前学習</p> <p>・テーマの設定</p> <p>・1、3年体験活動発表会</p> <p>・発表から課題の検討</p> <p>●調査、体験、実践活動</p> <p>・夏休み中の調査活動の計画</p> <p>・調査活動</p> <p>・救命救急ライセンス講座</p> <p>●学習内容の検討と修正 (比較研究)</p> <p>・これまでの調査をもとにさらに検討</p> <p>・沖縄の調査内容を秋田と比較して検討</p> <p>・課題検討、決定</p> <p>・調査・研究・実践活動</p> <p>・秋田の戦争体験の平和学習</p> <p>・レポート作成、発表準備</p> <p>●学習結果のまとめ</p> <p>・全校発表会</p> <p>●秋田を紹介するための調査・実践準備</p> <p>・沖縄での活動準備・計画</p> <p>●修学旅行準備</p> <p>●まとめと反省</p>	<p>【第1学年「郷土に学ぶ」04】</p> <p>●入門期ミニスキル前期 00</p> <p>・オリエンテーション(1)</p> <p>・図書室・土崎図書館の利用(1)</p> <p>・コンピュータの基本操作(1)</p> <p>・訪問調査や発表の仕方(1)</p> <p>・調査結果のまとめ(1)</p> <p>・調査活動の調べ方(1)</p> <p>・入門前期の反省と自己評価(1)</p> <p>・夏休みレポート課題の設定(1)</p> <p>●入門期ミニスキル後期 04</p> <p>・夏休みレポートの振り返り(1)</p> <p>・後期活動のオリエンテーション(1)</p> <p>・インターネットで秋田県を調べる(1)</p> <p>・図書館で秋田県を調べる(1)</p> <p>・秋田県のイメージをプリントにまとめる(8)</p> <p>・入門後期の反省と自己評価(1)</p> <p>●自己課題設定期 04</p> <p>・オリエンテーション(1)</p> <p>・自己課題の設定(2)</p> <p>・調査項目・内容の検討と設定(2)</p> <p>・訪問先の選定と事前学習(2)</p> <p>・質問事項の検討と事前学習(2)</p> <p>・フィールドワークの実施(2)</p> <p>・まとめ(2)</p> <p>・礼状の作成(2)</p> <p>・レポートの作成(2)</p> <p>・3年間を見通した課題の設定 02</p> <p>【第2学年「日本に学ぶ」04】</p> <p>●自己課題検討期 04</p> <p>・オリエンテーション(1)</p> <p>・課題の確認と学習計画(1)</p> <p>・訪問先決定(1)</p> <p>・事前学習(1)</p> <p>・活動計画(1)</p> <p>・依頼状の作成と発送(1)</p> <p>・質問事項の検討と発送(2)</p> <p>・フィールドワーク I 02</p> <p>・礼状の発送とレポート作成(5)</p>